

詩篇地図 第2巻

ダビデからソロモンへ 子が王となる

このメルキゼデクはサレムの王で、いと高き神の祭司でした。彼の名は訳すと、まず「義の王」、次に「サレムの王」、すなわち「平和の王」です。(ヘブル人への手紙 7章1~2節)

ダビデからソロモンへの最後のことば

ダビデはその子ソロモンを呼び、イスラエルの神、主のために宮を建てるように命じた。ダビデはソロモンに言った。「わが子よ。私は、わが神、主の御名のために宮を建てる志を持ち続けてきた。

しかし、私に次のような主のことばがあった。『・・・見よ、あなたに一人の男の子が生まれる。彼は穏やかな人となり、わたしは周りのすべての敵から守って彼に安息を与える。彼の名がソロモンと呼ばれるのはそのためである。彼の世に、わたしはイスラエルに平和と平穏を与える。彼がわたしの名のために家を建てる。彼はわたしの子となり、わたしは彼の父となる。わたしは彼の王座をイスラエルの上にとこしえに堅く立てる。』

・・・ただ、どうか主があなたに思慮と悟りを与えて、あなたをイスラエルの上に任命し、あなたの神、主の律法を守らせてくださるよう。主がイスラエルのためにモーセに命じられた掟と定めをあなたが守り行うなら、あなたは栄える。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。"

歴代誌 第一 22章6~13節

「私は世のすべての人が行く道を行こうとしている。あなたは強く、男らしくありなさい。あなたの神、主への務めを守り、モーセの律法の書に書かれているとおりに、主の掟と命令と定めとさとしを守って主の道に歩みなさい。あなたが何をしても、どこへ向かっても、栄えるためだ。

そうすれば、主は私についてお告げになった約束を果たしてくださるだろう。すなわち

『もし、あなたの息子たちが彼らの道を守り、心を尽くし、いのちを尽くして、誠実にわたしの前に歩むなら、あなたには、イスラエルの王座から人が漸たれることはない。』(列王記 第一 2章1~4節)

ソロモンへの約束 宮に主の名を置き、王座を確立する

父ダビデの道

69: -71:
恥ずかしめ



#2 偶像

72:
義王の座



#1 我主

(第1戒)

「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。あなたには、わたし以外に、ほかの神があつてはならない。

(第2戒)

あなたは自分のために偶像を造ってはならない。(略) わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

歴代誌

61: -64:
主は避け所

65: -68:
ほむべきかな

サムエル記

49: -54:
主を恐れる

55: -60:
主がさばく

42: -44:
御顔を隠す

45: -48:
神の都

(第3戒)

あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。

(第4戒)

安息日を守って、これを聖なるものとせよ。あなたの神、主が命じたとおりに。六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。七日目は、あなたの神、主の安息である・・・

神殿奉獻の夜ソロモンに現れ・・・

その夜、主はソロモンに現れ、彼に言われた。「わたしはあなたの祈りを聞き、この場所をわたしにいけにえを献げる宮として選んだ。わたしが天を開き雨を降らなくなったり、あるいはわたしがバツタに命じてこの地を食い尽くさせたりして、わたしがわたしの民に対して疫病を送ったときには、わたしの名で呼ばれているわたしの民が、自らへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求めてその悪の道から立ち返るなら、わたしは親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地を癒やす。今、わたしはこの場所でささげられる祈りに目を開き、耳を傾ける。今、わたしはこの宮を選んで聖別した。それはとこしえにわたしの名をそこに置くためである。わたしの目とわたしの心は、いつもそこにある。

もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、わたしの前に歩み、わたしがあなたに命じたことすべてをそのまま実行し、わたしの掟と定めを守るなら、わたしが、あなたの父ダビデに『あなたには、イスラエルを支配する人が漸たれることはない』と言って契約を結んだとおりに、わたしはあなたの王座を確立しよう。

しかし、もしあなたがたが背いて、あなたがたの前に置いたわたしの掟とわたしの命令を捨て去り、行ってほかの神々に仕え、それを拝むなら、

わたしは彼らに与えた地から彼らを根こそぎにし、わたしがわたしの名のために聖別したこの宮をわたしの前から投げ捨て、これをすべての民の間で物笑いの種とし、嘲りの的とする。

かつてはそびえていたこの宮も、そのそばを通り過ぎる者はみな驚き恐れて、『何のために、主はこの地とこの宮に、このような仕打ちをされたのだろう?』と言う。

人々は、『彼らは、エジプトの地から彼らを導き出した彼らの父祖の神、主を捨ててほかの神々に頼り、それを拝み、それに仕えた。そのため主はこのすべてのわざわいを彼らに下されたのだ』と言う。」

(歴代誌 第二 7章12~22節)